

東の窓

愛知川東小学校だより

平成27年1月7日 第9号



平成27年・3学期がはじまりました！

一日・一週・ひと月・学期・一年などの区切りの中で、1月は子どもたちにとって新年と新学期が重なる「新たな自分を創る絶好の節（ふし）」です。

子どもたちは「新年の抱負」「3学期の目標」などを考えたことでしょう。「そんなモン、その時だけよ～。な～も変わらんわ」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、その時には「今年は〇〇をがんばりたい！」「今学期は□□をなおしたい！」「△△になりたい！」などと、子どもなりに真剣に考え、決意したはずです。

実現するかしないかは別として、どの子も『苦手なことを克服したい！』『自分を高めたい！』と思っています。「こうなりたい！がんばりたい！」の子ども気持ちを大事に受け止め、応援してやっていただければ・・・と思います。

「雪の日の光景」（20数年前のできごとから・・・）



その日は前日から降り続いていた雪が止まず、給食後に時間を繰り上げて、地区担当が付き添う全校集団下校となりました。

「〇〇地区の人はここやでえ～」と、子どもたちを集合させていたら、Aさんのおかあさんが、「車で連れて帰ります」と来られました。Aさんのうれしそうな表情とは反対に、他の子たちは、「車でええよなあ～」「車はあったかいやろな。」のふくれっ面。「まあまあ」となだめ、歩き出しました。

灰色の空から降り続くボタン雪に、「上見てみ。ゴミみたいや！」と一人の子が言い出しました。「ほんまや！」と次々に上を見上げます。もう、顔はビチョビチョ。こうなるともう、吹き溜まりにダイビングしてキャー！わざとこけ、雪だらけになってゲラゲラ！凍っているところでスッテンコロリン！などなど、ツチャクツチャカ有様。テンションが上がるにつれて、そこに不思議な連帯感が生まれ、みんなが『雪に立ち向かうヒーロー！』のごとくなりました。

・・・そこに、Aさんに乗せた車がゆっくりやってきました。曇ったガラス窓にへばりついたAさんの顔がスローモーションのようにハッキリ見て取れ、その顔はとてもうらやましように、哀しげに見えたのです。一方は大騒ぎの『チラ見のドヤ顔』あまりにも対照的な姿でした。「Aさんも一緒に雪に立ち向かいたいのかも・・・」と思ったことを、今も鮮明に覚えています。

雪の日や雨の日、そしてうだるような暑い日。子どもたちにとっては過酷な登下校の日があります。また、体調不良等で「車で送迎」にならざるを得ないことも理解しているつもりです。

しかし、親がよかれと思ってやっている（やってきた）ことの中に、もしかしたら子どもの楽しみや成長の機会を取り上げてしまっていること（しまったこと）があるかもしれません・・・。

12月の学校だよりでも触れましたが、日々の「当たり前・普通のこと」や「小さな頑張り」に、子どもを大人へと成長させる大事なことが含まれているのではないかと考えてなりません。

『生活の中で子どもが立ち向かえる機会があるなら、それを逃す手はない！！』と思うのですが・・・いかがでしょうか。

